

菊池市中心市街地における まちづくり活動の変遷に関する一考察

吉永 敦音¹・田中 尚人²

¹ 学生員 熊本大学大学院自然科学教育部（〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1）

E-mail:188d8365@st.kumamoto-u.ac.jp

² 正会員 熊本大学准教授 熊本創生推進機構（〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1）

E-mail:naotot@kumamoto-u.ac.jp

近年地方都市では、人口減少や高齢化からまちづくり活動への参加頻度が低下し、まちづくり活動を支えてきた組織が縮小、解散するなど地域のつながりが希薄化している。本研究の目的は、熊本県菊池市の中心市街地限府におけるまちづくり活動の特徴とその変化のプロセスを明らかにすることである。具体的には、文献資料に基づき限府の都市構造の変遷を整理し、まちづくり活動主体にヒアリング調査を行った。研究の結果、限府のまちづくり活動について以下の二つの事が分かった。商業規模の縮小の影響を受けた地縁型組織に対し、テーマ型組織やイベントなどを中心に新しい活動が生まれた。また、同様の活動が行われていた「御所通り」と「中央通り」で、異なる特性の活動が行われるようになったことが分かった。

Key Words: Waifu, Gosho-street, Chuo-street, community, urban structure

1. はじめに

(1) 研究の背景・目的

近年地方都市では、人口減少や高齢化からまちづくり活動への参加頻度が低下し、まちづくり活動を支えてきた組織が縮小、解散するなど地域のつながりが希薄化している。さらに、住民のニーズの多様化により、行政対応の限界が問題とされており、多様な主体の連携による地域づくりの必要性が高まっている。それに対し、国土交通省の「地域づくり活動支援体制整備事業」など地域の活性化に向けて、行政や地域の企業、地域の多様な主体が担い手となって参加し、地域資源を活用しながら協働する「地域づくり活動」の支援が、全国各地で進められている。その中で菊池市では、地域おこし協力隊を積極的に導入し、総務省のモデル事業として域学連携事業を実施するなど地域住民と行政の協働の場が数多くある。

本研究では文献資料に基づき限府の都市構造の変遷を整理し、まちづくり活動主体へのヒアリング調査を踏まえて考察することで、菊池市の中心市街地のまちづくり活動の特徴とその変化のプロセスを明らかにすることを目的とする。

(2) 調査概要

菊池市の中心市街地である限府は「御所通り」と「中央通り」を中心に形成されている。これらの通りに着目し、ヒアリング調査と文献資料調査を行い、都市構造を基盤としたまちづくり活動の比較と考察を行う。

2. 限府界隈の概要

本章では菊池市における限府の位置づけ、歴史、自然環境について述べた。また、研究の対象である「御所通り」と「中央通り」の概要と限府における通りの位置について整理した。

(1) 菊池市における限府の位置づけ

菊池市は熊本県の北東部に位置し、面積約277km²、人口約5万人の都市で、人口減少と高齢化が進んでいる。阿蘇の外輪山に接しており、西側には花房台地が広がり、外輪山を源流とする菊池川やその支流の迫間川などが流れ、菊池平野を形成している。湧水など豊富な水資源と肥沃な土地を有しているため、江戸時代には有名な米どころとなる等、農業を主産業としている。近年では住宅

地の拡大や大規模工場の立地もみられる。その中で隈府は平野部に位置し、菊池の政治、経済の中心地として栄えてきた。

(2) 隈府の歴史

隈府の歴史は平安時代から室町時代まで続く菊池一族に始まる。平安時代に藤原則隆を初代とする菊池氏が赴任してから、菊池一族が菊池地方を支配していく。その後、江戸時代に細川氏が肥後藩藩主となり、明治時代に入ると幕藩体制から新しい行政体系へと変わり、1879年に菊池郡及び合志郡の郡役所が隈府に置かれるなど菊池地方の行政の中心地となった。第二次世界大戦後の1954年に温泉が採掘され、温泉観光都市として発展した。

(3) 隈府の自然環境

隈府の南部には一級河川である菊池川、北部にその支流である迫間川が流れ、東部に小高い地形の城山があり西部に菊池平野が広がっている。隈府は扇状地上に形成された地域であるため水の便が悪く、かつては桑畑や畑地として利用されていた。江戸時代初期に中央通りを通る築地井手が開削された後は新田開発が進んだ。築地井手の他に現菊池市役所の南側を通る新堀井手も存在し、洗い場などの生活設備として利用されてきたが、現在は暗渠化されている区間が多い。また菊池公園や菊池神社がある東部の城山は、桜の名所として存在している。

(4) 通りの概要

図-1のように御所通り（写真-1、写真-2）は上町区、中町区、下町区から形成され横町区が接している。菊池神社の参道の延長線上にあり、江戸時代には上町筋、本町筋と言われていた。通り沿いには個人商店が点在し、將軍木や能場など文化遺産や高校がある。白塗りの壁や土蔵造りの町屋が連なっており、古くからの街並みを残している。中央通り（写真-3、写真-4）は立町区、中央通り区、迎町区から形成されており、正院町区などが接している。商店が通り沿いに連なっているが、空き地や空き店舗が点在している。



図-1 隈府における通りの位置



写真-1 現在の御所通り



写真-2 將軍木



写真-3 現在の中央通り



写真-4 日蓮宗妙蓮寺

3. 隈府の都市構造の変遷

本章ではまちづくり活動を行う基盤となる隈府界隈の都市構造の変遷を整理した。地形図を用いて事象ごとに、昭和期から平成期にかけての都市空間の移り変わりを明らかにした。また、景観写真や文献資料を基に「通り」ごとの生活空間と位置づけの変遷を読み解いた。

(1) 都市空間の変遷

a) 道路・公共交通

1961年に8路線が都市計画道路に決定した。1960年代モータリゼーションが進み、菊池市においても1970年代に自家用車が急激に普及した。1967年に1,175台であった乗用車の台数は1984年には9,029台にまで増加している。それに伴い、道路の改良工事が行われ、1960年代に温泉通り線が敷かれ、現在の市民広場の土地と行政側の土地に明確に分断された。また、1972年に国道387号線にあたる都市計画道路正観寺東原線が開通し、1983年に大琳寺木庭橋線が開通した。現在は御所通りと中央通りの通過交通量が多く、商店利用者の歩行者環境を阻害している。現在は隈府中央線の整備が行われている。

大正期に隈府駅が落成し、1942年に熊本市中心市街地まで直通運行が開始された。昭和初期には大型バスによる運行も開始され、鉄道とバスが交通手段であった。その後隈府-御代志間の鉄道は廃線となり、現在隈府-熊本市内間ではバスが主要な交通手段となっている。廃線後の隈府駅はバスターミナル「菊池プラザ」として利用されているが、店舗はほぼ閉店している。さらに2004年に市街地を環状線として巡回するコミュニティバス「きくちべんりカー」が運行している。



図-2 1946年

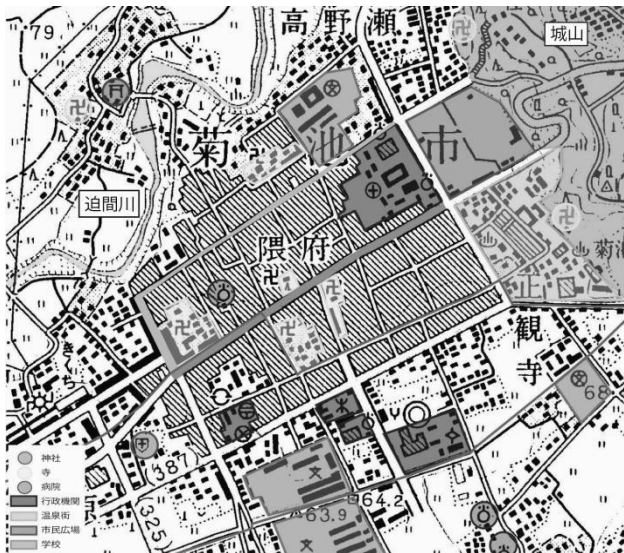


図-3 1971年

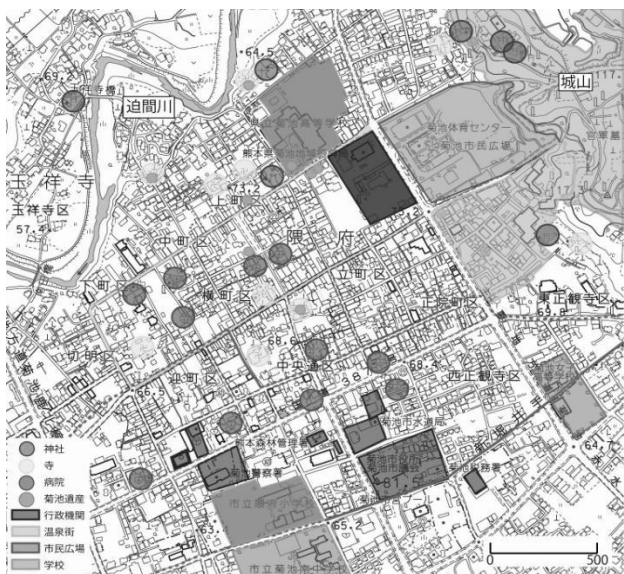


図-4 2013年

b) 行政機関

1879年に御所通り沿いの現市民広場側に郡役所が限府に置かれた。1960年頃には行政機関が郡役所跡地周辺に集中している。また、市役所が中央通り沿いにあり、どちらの通りも行政機関の中心であった。その後、1968年に市庁舎が南側の栄町に移転し、跡地には菊池ショッピングセンターが建設された。また、敷地内の議会棟を商工会が買収し、商工会館が中町から移転した。さらに、市庁舎以外にも特別用途地区として、税務署、警察署、文化会館など、行政・文化教育施設が限府の南部に集中している。

c) 水辺空間・温泉

限府の南部に一級河川の菊池川が流れており、灌漑用水路の井手が市街地を貫流している。江戸時代初期に開削された築地井手は菊池川水系最古の井手とされる。限府の市街地に入る手前で分岐している。戦後は都市部や集落においては生活用水路、排水路としても機能していたが、1954年に温泉が湧出すると温泉の残り湯が井手に流され、汚染された。その結果蓋がされたが、2004年から地域用水環境整備事業として農業用水路と周辺の一体的な整備が行われた。2012年には井手沿いに切明ポケットパークが完成するなど再活用が行われている。

限府町商工会は1945年に今後の活気と発展を望み、半農半商から観光都市として再出発することを決定した。1954年に温泉が湧出し、これを機に限府は温泉観光都市として発展した。団体客の宴会などが行われ、1974年には観光入込客100万人突破した。「美肌の湯」と呼ばれるなど肌ざわりがよく、女性客、家族客中心の保養型志向に方向転換を図った。また観光旅館協同組合が形成され「周湯券」という湯巡り手形を発行するなどの取り組みを行っている。2016年の熊本地震で観光地である菊池溪谷が被害を受け、観光客が減少したため、菊池温泉も影響を受けた。

(2) 生活空間の変遷

a) 商業空間の変遷

終戦後は限府商店街として店が連なり、初市では、植え木、陶器、見世物小屋があり、行列ができていた。また、三輪車を用いた移動販売や大抽選会などの行事が各地で行われていた。経済の高度成長化により消費者の需要が多様化し、寿屋などの大型デパートに人が集まった。この頃は経営指導など商工会活動が活発に行われていたが、商店街の売り上げの伸び率は鈍化した。平成期は周辺町村への大型店の出店や市郊外へのスーパーやワントップ型の商店の立地にみられるように商業環境が変化し、商圈規模は縮小傾向にある。後継者不足などにより空き店舗が目立ち、来訪者の減少が進んでいる。

b) 余暇の変遷

自動車の通行が珍しかった 1990 年代前半は、通りの真ん中で子供が遊び、大人も自由に行き来していた。赤玉パチンコのネオンが見られ、横町の桜座や中央通りのセントラル劇場では催し物が行われていたが、現在はなくなっている。菊池秋まつりや温泉まつりなどのイベント時には写真-5、写真-6 のように子供や婦人会の踊り隊が行列を作っていた。昭和初期から夏休みには下町でラジオ体操が行われており、このラジオ体操や踊り隊の文化は平成期でも受け継がれている。



写真-5 中央通り (1970年代)



写真-6 上町 (1970年代)

(3) 通りの位置づけの変遷

a) 御所通りの位置づけの変遷

1900 年代前半は農村部から限府町に出てきた人の休憩場となる牛馬のつなぎ場が点在していた。北東の山間部や、菊池平野を控えた米所の農家が牛馬を繋いで利用していた。写真-7 のように郡役所があったころから中心地として商店が連なり、正月の大売り出し時には当時珍しい自動車に「しめ縄」を飾り、手作りのメガホンで宣伝を行っていた。菊池高校へ通学する生徒の通学路となり、学校帰りには駄菓子を食べていた。1960 年代までは写真-8 のように店が連なっていたが徐々に空き店舗が増えてきた。現在は商店が点在しているが、通過する車通りが多く、歩行者が減少した。一方で昔ながらの景観を守る活動やまちかど資料館が出来るなど、限府の歴史・文化の中心となった。



写真-7 下町 (1920年)



写真-8 中町 (1960年代)

b) 中央通りの位置づけの変遷

井手場田通りと呼ばれており、井手沿いの中ほどに石橋がかけられ、数本の柳が植えられ、米や野菜を洗い、洗顔を行うなど生活の一部であった。また、田植え前には必ず清掃作業が行われており、この時期には「堰止

め」があり、小学生が多くの川魚を取って遊んでいた。

1900 年代半ば、このお堂の西隣に郵便局、東に町役場もあり、町政・通信等の中心として、写真-9、写真-10 のように賑わいを見せていた。1968 年に栄町に役場が移転してからは商業地としての機能を果たし、跡地には大型デパートが進出し、農村部からも買い物客をしの訪れる人も多かった。その後は大型デパートを含む商店が徐々に閉店し、現在は空き店舗が目立つが個人商店が沿道沿いに点在している。さらに、祭りやイベント時には通り全体を使うなど受け継がれているものはあるが、遊びなどの日常生活の利用は無くなった。



写真-9 中央通り (1940年)



写真-10 中央通り (1963年)

(4) まとめ

a) 限府の都市・生活空間の変遷

1960年代からモータリゼーションの流れを受け、都市計画道路網が建設され、1986年の限府-御代志間の電気鉄道が廃線になることで、自動車の台数も大幅に増加した。その結果商店街内を自家用車が通過することで商店利用者の歩行環境が変化した。また、役場が御所通り沿い、中央通り沿い、栄町と移動すると同時に文化会館などの拠点施設が南下した。特別用途区を設置しており、南部に集中している。その結果、限府の商業規模が縮小し、生活空間も南下していった。また、1954年に温泉が掘削されたことにより、温泉観光地として発展した。水辺や広場などの憩いの場の利用が1990年代から行われた。

b) 限府における通りの位置づけの変遷

郡役所があった名残を受け、昭和初期は御所通りが中心だった。その後中央通りにも商店が連なり、役場や郵便局があったため、2つの通りが商業と町政の中心であった。また、通りの中央や井手で子供が遊び、娯楽施設が各地にあるなど生活の中心でもあった。高度成長時に大型デパートが進出した際には、遠方からも人が集まってきたが、徐々に商業規模が小さくなった。また、平成期になると大型店の進出等により、商業規模の縮小が加速し、空き店舗が目立つようになった。その結果、御所通りは商店はあるものの歴史・文化の中心に、中央通りは商店街としての要素が強くなった。

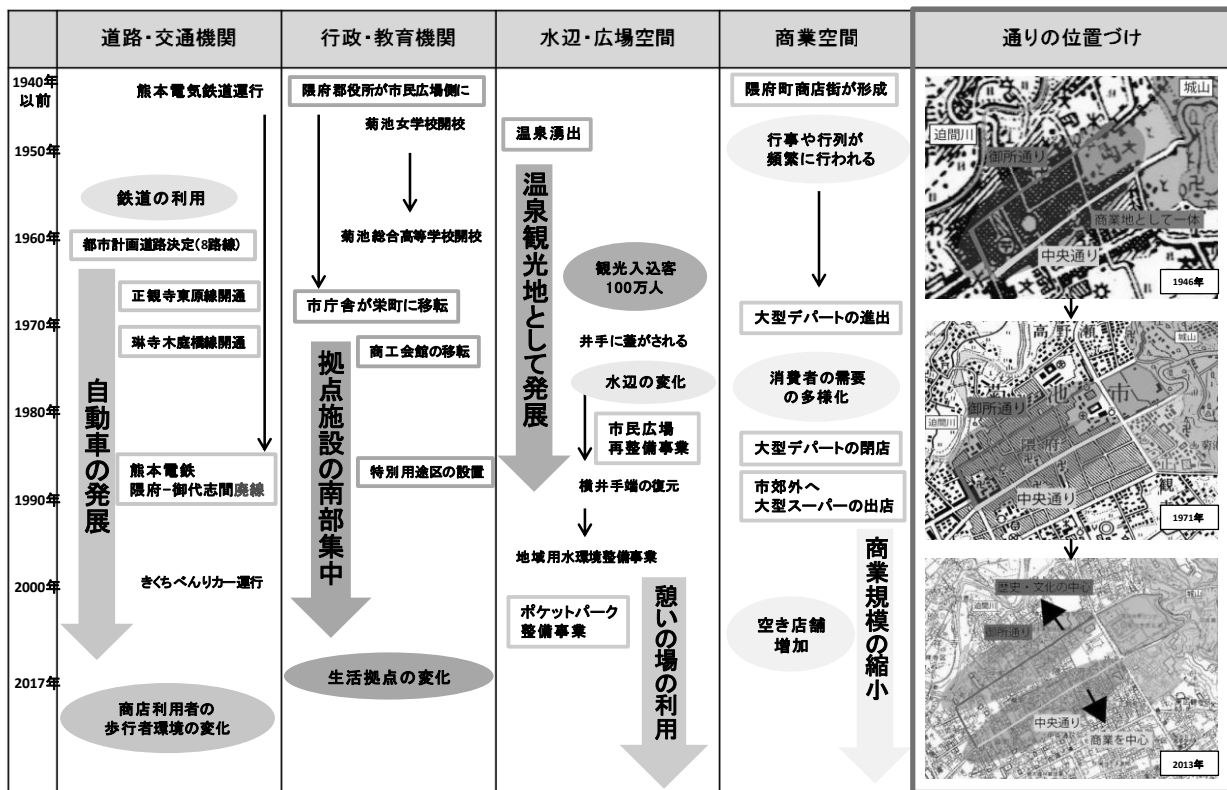


図-5 限府の都市構造の変遷

4. 限府のまちづくり活動の変遷に関する考察

本章では限府のまちづくり活動の現状を把握し、終戦後からの都市構造の変遷との関係性について考察した。さらに、御所通りと中央通りのまちづくり活動が位置づけの変化によってどのような特徴を示すかを考察した。

(1) 調査概要

限府の御所通りと中央通りでまちづくり活動を行う各主体の代表者、または過去の活動に詳しい方にヒアリング調査を行った。また、商工会関係や各区商工業組織、老人クラブなどは文献資料を基に活動実態を整理した。

表-1 ヒアリング調査対象

日付	所属	対象者	役職
10/10,11/22	老人会	I氏,O氏	上町老人会会長
10/10	御所通り 景観形成協議会	I氏,O氏	協議会会長、市役所職員
10/12	地域おこし協力隊	I氏	現地域おこし協力隊
11/22	婦人会	I氏	婦人会
11/27	軽トラ朝市 菊池養生詩塾	S氏	元地域おこし協力隊、現代表者
12/5	松倉邸NPO法人 まちづくり千年の風	T氏,A氏	現代表者
12/8	特定非営利活動 法人きくち櫻会	I氏,T氏	現副理事長

(2) 限府におけるまちづくり活動の整理

ヒアリング調査と文献調査を行った結果を示す。限府におけるまちづくり活動の主体を、町内会などの地縁型組織とNPOなどのテーマ型組織に分類した。

a) 御所通りのまちづくり活動

御所通りの地縁型組織には繁栄会、上町区の上町老人会、下町区の下町老人会があった。上町老人会は菊池遺産に登録されている「菊池の松囃子」が奉納されている「能場」や「將軍木」で掃き掃除や除草を約20年間継続していた。繁栄会は、街灯の設置や暖簾、花壇の整備などを行った。また、御所通り景観形成協議会は文化・歴史を尊重し統一のとれた町並みとするため、行政と住民で形成されていた。まちづくり協定や街並み協定を結び、建物の外観・色・材料・壁面位置などの基準を設け、写真展などの催し物を開催する場を設けていた。

テーマ型組織は主に「松倉邸」を拠点に活動をしていた。松倉邸は「NPO 菊池まちづくり千年の風」が管理・運営を行い、様々な会合・講演会や企画展示会などに活用されていた。さらに、「菊池養生詩塾」はまちづくりの中間支援団体として、松倉邸を拠点に農・工・観光等の異種業の連携を深め、まちづくりの関心を促す仕掛け作りを行っていた。また、意見交換会やまちづくり道場などをのイベントを開催していた。



写真-11 松倉邸の活用



写真-12 歴史資源の清掃活動



b) 中央通りのまちづくり活動

中央通りは商店街が形成されているため、「菊池市商工会」を中心に活動が行われていた。「菊池市商工会」は商工業の総合的改善発達を図るとともに、社会一般福祉の増進に資することを目的としており、経営改善普及事業と地域総合振興事業を行っていた。商工会には「青年部」と「女性部」があり、様々なイベントに出展し、地元特産物の展示販売や観光PRなどを行っていた。また、美化運動・福祉施設慰問や各種研修など商店街組合の中核体となっている。その中で地縁型組織には商業者組織として各商店の連携を図るため、地区ごとに「立町親栄会」「中央通り繁栄会」「迎町ハッテン会」などがあった。テーマ型組織の「特定非営利活動法人きくち桜会」は社会教育・まちづくりの推進活動や観光・地域安全活動を行っていた。また、「コミュニティースペースよっこい処」の運営を行っており、無料休憩所、案内所としての役割の他にコーヒー提供、フリーマーケット、本の閲覧などのサービスを行っていた。また、毎月第4日曜日に「菊池の軽トラ朝市」が開催されていた。中央通りが歩行者天国となり、軽トラが沿道に連なる。野菜や果物のほか、手作りお惣菜やお菓子などの軽食も出店し、スタンプラリーなどのイベントも行われていた。



(3) 隈府におけるまちづくり活動の変遷

a) 都市構造におけるまちづくり活動の変遷

都市構造の変遷との関係性を整理したものを図-7に示した。図より商業規模が縮小したことにより商店街の高齢化や過疎化が進み、町内会や商工業者の活動が徐々に衰退したことが分かった。その原因として1970年代からの自動車の発展により商店利用者の歩行環境が悪化したことと、1968年の市庁舎の移転をはじめとする行政機関などの拠点施設が南部に集中したことやバイパス沿いの大型スーパーの出現により生活の拠点が南下したことが分かった。また、活動が衰退したことにより、商業の衰退が加速するなど、まちづくり活動と都市は密接に関わっていることが分かった。

以上のように、限府では自動車社会、拠点施設の移転などの都市構造の変化による商業規模の縮小の影響を受け、町内会や商工業者のまちづくり活動が徐々に衰退したことが分かった。

b) 通りごとのまちづくり活動の変遷

図-8に示すように御所通りでは第二次世界大戦前後から老人会や婦人会などの町内会組織が存在していた。子供相撲など様々な行事が行われており、町内会を中心として生活していた。また昭和前期は商業でも中心であったため、商業者同士が連携し、活動を行ってきた。しかし、昭和後期頃から町内の高齢化や働き場が無くなってきたため、婦人会やなどの複数の町内会組織は消滅していった。また、上町に歴史資源が点在していることもあり、文化を守る風習が根強く、清掃活動が行われていた。昭和期以前からご近所同士で自主的に行われており、戦後より婦人会が活動を行ってきたが、消滅と共に繁栄会が

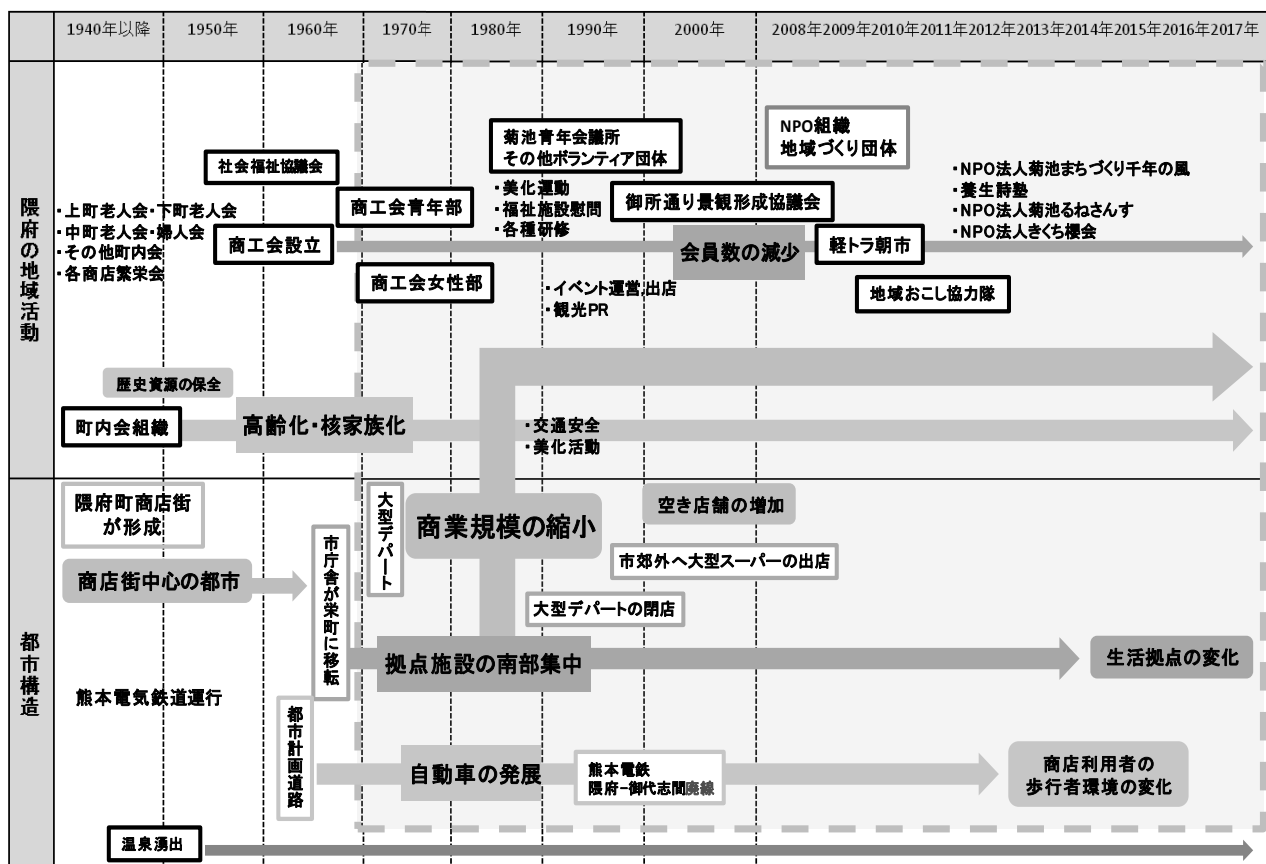


図-7 限府の都市構造におけるまちづくり活動の変遷

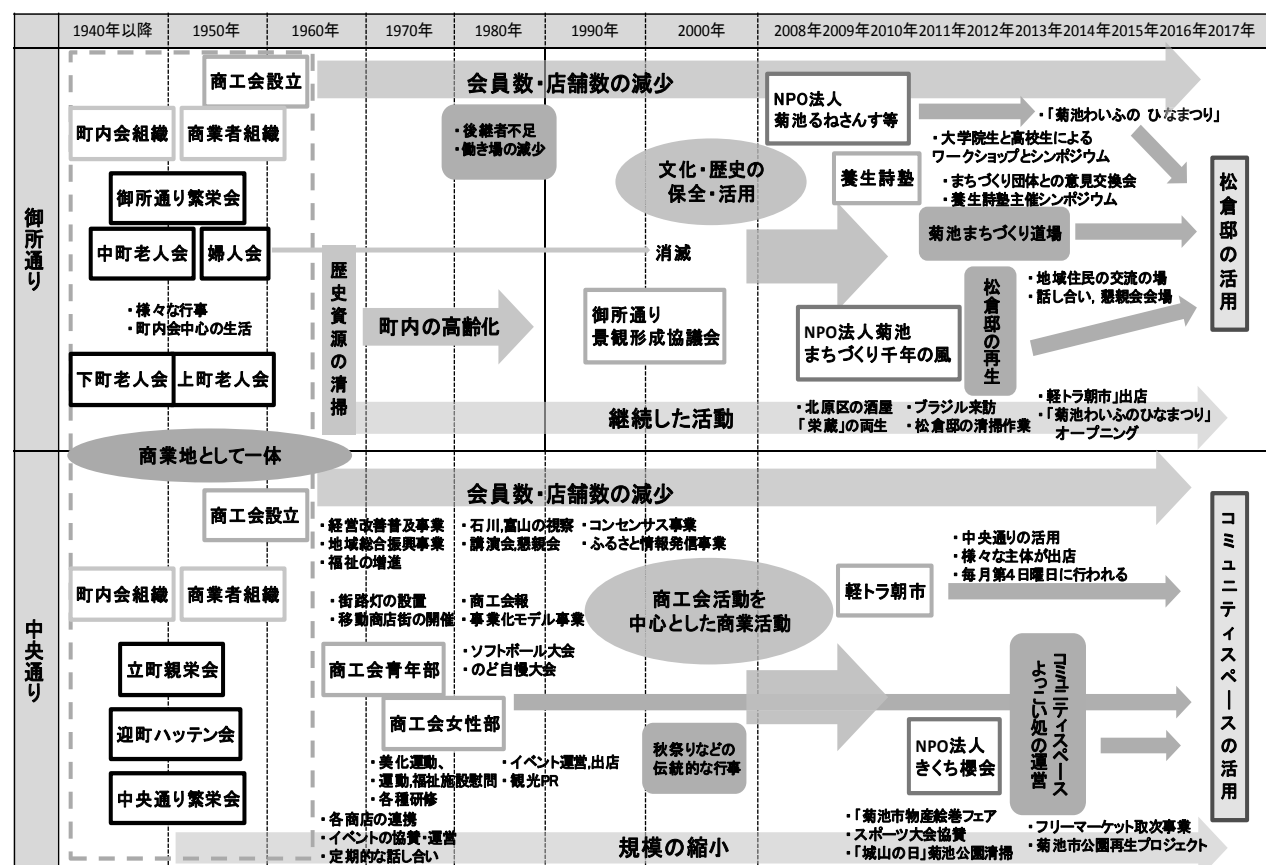


図-8 限府の通りにおけるまちづくり活動の変遷

引き継いだ。その後1990年代より上町老人会を中心に日頃の住民同士の声かけや、交流の場を設けることで活動を2017年時まで継続している。また、1993年より御所通り景観形成協議会が発足してから、歴史的な町並みや文化を守る気運が加速した。しかし、後継者不足や発足後の勢いを継続できていないなどの課題を抱えていた。2000年代よりNPO法人などの組織の活動が始まり、歴史資源である松倉邸を活用し、様々なワークショップやイベントを行ってきた。高校生や地域住民とのイベントを開催することで、地域住民の交流以外にも外部との媒介としての役割を果たしてきた。また、近年メンバーの減少と他の仕事との兼ね合いもあり、活動内容を絞る傾向がみられた。戦後以降の中央通りでは商工業者の活動を中心にまちづくり活動が行われてきた。商業地としての要素が強く、商業者同士のコミュニティがあったが、規模が縮小している。また、商工会の青年部と女性部は1970年ごろから活動を始めているが、平成期になり会員数が減少している。また、疲弊した商店街の再生を目指して、2009年より軽トラ朝市が開催されている。様々な主体が出店し、客足が絶えないことから、昭和期の限府町商店街の賑わいを一時的ではあるが取り戻している。また、一部ではあるが秋祭りなどの伝統的な行事も継続している。2015年より外部組織がコミュニティスペースの運営と活用を行っている。

以上のように戦後間もない頃の限府では、どちらの通りも町内会や商店街の繁栄会をはじめとする組織を中心にまちづくり活動を行ってきたが、昭和後期より高齢化や会員数・店舗数の減少などにより規模が縮小してきた。その中で、御所通りは1990年代から、協議会やNPO法人などにより歴史や文化資源を保全、活用する取り組みを中心に行ってきた。一方で中央通りでは、昭和期からの商業地としての名残を受け、商工会や繁栄会などを中心に活動し、商業との関わりが強い事が分かった。さらに秋祭りなどの伝統あるイベントを継続しながら、軽トラ朝市やコミュニティスペースの活用など、近年の新たな取り組みが行われるようになった。このように御所通りと中央通りではまちづくり活動形成のプロセスに違いが表れたことが明らかになった。

5. おわりに

本章では各章で得た限府のまちづくり活動の変遷及び、都市構造に関する情報を整理し、本論文の結論を示した。

限府全体では自動車社会、拠点施設の移転などの都市構造の変化をきっかけとした商業規模の縮小の影響を受け、町内会や商工業者などの地縁型組織の活動が徐々に

衰退していった。一方で、平成期からNPO法人などのテーマ型組織や軽トラ朝市などのイベントなどを中心に新しい活動が生まれたことが分かった。その中で二つの通りでは戦後間もない頃より地縁型組織を中心に一体となって活動してきたが、御所通りでは1990年代から歴史や文化資源を保全・活用する取り組みを中心とし、中央通りでは商工会や繁栄会などを中心に活動するなど、異なる特性の活動が行われるようになった。

結論として、限府では商業規模の縮小の影響を受けた地縁型組織に対し、テーマ型組織やイベントなどを中心に新しいまちづくり活動が生まれ、その中で同様の活動が行われていた二つの通りで、異なる特性の活動が行われるようになった事が分かった。

謝辞：本研究を進めるにあたり、丁寧なご指導と的確な助言を頂いた田中尚人先生に御礼申し上げます。菊池市限府において地域のためにご尽力なさっている皆様には資料提供をしていただき、ありがとうございました。

参考文献

- 1) 高見沢邦郎・早田幸・葉袋奈美子、まちづくり中間セクターの実態と非営利まちづくり組織への展望、住宅総合研究財団研究年報、21号、45-64、1995。
- 2) 中村省吾・星野敏・中塚雅也、地域づくり活動展開におけるソーシャル・キャピタルの影響分析—兵庫県神河町を事例として—、農村計画学会誌、27巻、311-316、2008。
- 3) 菊池市市文化資源活用地域づくり委員会：菊池市「記憶の記録・伝承事業」報告書、菊池市文化資源活用地域づくり委員会、2015。
- 4) 菊池市商工会：菊池市商工会設立45周年記念誌、商工会2005。
- 5) 菊池市：菊池市史 上巻、pp3、1982。
- 6) 菊池市：菊池市史 上巻、pp917-964、1982。
- 7) 菊池市：菊池市史 下巻、pp1033-pp1060、1986。
- 8) 菊池市：菊池市史 上巻、pp9、1982。
- 9) 菊池市：菊池市史 下巻、pp803-806、1986。
- 10) 菊池市：菊池市史 下巻、pp810-823、1986。
- 11) 菊池市：菊池市史 下巻、pp927-931、1986。
- 12) 菊池市：菊池遺産、最終閲覧日2018年1月14日
<http://www.city.kikuchi.lg.jp/q/list/193.html>
- 13) 菊池市：菊池市史 下巻、pp193-204、1986。
- 14) 菊池市：菊池市史 下巻、pp709-802、1986。
- 15) 菊池市：菊池市史 下巻、pp913-919、1986。
- 16) 菊池市：菊池市史 下巻、pp1012-1015、1986。
- 17) 菊池市：菊池市史 下巻、pp1010-1012、1986。

(2018.4.9 受付)